

3.11を忘れない

INORINO KIZUNA

祈りの絆

第 39 号

2016年8月24日 全国発送

日本バプテスト連盟東日本大震災被災地支援委員会 <http://www.bapren.jp>

【震災募金口座】 振替 00140-9-180881
宗教法人日本バプテスト連盟総務部

《原発課題コラム》

『原子力非常事態宣言発令中』だから？

松山西キリスト教会 （中四国連合社会委員会） 立田卓也

私の反原発のスタートは保養キャンプです。今夏も高知や愛媛で民間団体さんのそれにボランティア参加し、親子さんに出会わせてもらっています。

…放射線被爆を避けるため幼いわが子に夏でもマスクや重ね着をさせての外出。自分で学校や自宅を除染したてきた母親が、避難先で何の心配もなく窓を開け放ち、軒先で昼寝する我が子の前髪が額に風で揺れたその時、泣いた…

類似の体験と抱えるであろう母親は言葉にも出来ず、保養最終日には泣きながら励ましあう姿がありました。

保養に来られる親御さんには放射能は見えています。でも自宅に帰れば見えていても、周囲への気兼ねから、放射能について語ることを控えさせる現実。心理的負担と起きつつある健康不安。こんな抱えをさせている“力”に対して、私たちはいつまで目を背けましょうか。

8/12、伊方原発3号機が再稼動されました。この日までに原発近隣の方々も含む全国との連帯によって、抗議行動や再稼動反対デモが各所で行われました。また、ある福島の方は3.11の数日前、周辺で複数の小さな地震が起きていた際、東電に原発を止めるよう電話をしていました。言わば“予言者的”な運動をずっとしてきてくれ、今もなおし続けています。

一方、再稼動後の記者会見で、中村時広愛媛県知事は「福島と同じことが起こることはない」と断言しました。企業・規制委・政府・県そして再稼動やむなしとする住民も、このうちの誰かが「安全だ」といっているのを信じるし信じるしかない、といった無責任体制内での精神論に陥り、安全神話が語られていきます。

これらの状況を作りだしている主体が時の“体制”であるとき、その体制の罪が糾弾され、体質が問いなおされないのはなぜでしょうか。「最大多数の最大幸福」を隠れ蓑にした多数決と強者の論理にいつまでも厚顔無恥で居ることは個人の罪ではないでしょうか。

【写真】3号機（画面中央）の再稼動を目の前に →



《被災地との絆～被災者との交流報告》

山梨教会・前遠野ボランティアセンター主事 佐藤 浩

震災から5年半が過ぎようとしています。私も新しい教会に赴任しましたので、今は1年に一度、個人的に被災地を訪問しています。既に仮設団地の方々の中には、家を再建された方、災害復興公営住宅に移られた方、親族の住む他の地域に移られた方など仮設から出られた方も少なくありません。それでも私たちがお伺いすると、佐藤夫婦が来るよと声を掛け合って下さって、喜んで迎えて下さいます。けれど都合が合わなくて、こちらから新しく移られたお宅を訪ねさせていただく場合もあります。個別に訪問させていただく方は、口を揃えて「来年はちゃんと前もって連絡してきて、うちに泊まってね」と仰って下さる。震災から半年後に被災地支援を始め、それから1年半というあまり長くない時間でピリオドを打った支援でした。しかし、連盟諸教会の皆様の力で繋がってきた支援は、豊かな交わりとなって今も続いていることを報告させていただきます。

しかし、なお加えて、お伝えしたいことは、震災以前の生活にはまだまだ戻っていない、ということです。被災地の方々の声が小さくなっているのは、まだまだ不足している生活に慣れてきてしまったからに他なりません。被災地にボランティアに来て下さったことのある皆さん、是非ボランティア活動でふれあった被災地の方々を思い出して下さい。そして周りの方に伝えて下さい、復興はまだまだだと。

【写真】大槌町復興のモニュメントと小鉾第4仮設の方々との再会



《現地支援委員会より》（現地支援委員会 金丸 真）

東日本大震災後、6度目の夏がやってきました。震災以来、開催できないでいた花火大会なども、地域によっては今年の夏から復活するというニュースも聞かれるようになりました。私たちが通っている宮城県亘理町では、仮設住宅から多くの方が転居し、仮設住宅の取り壊しが始まりました。一気に取り壊すのではなく、パーツごとに丁寧に解体されています。その様子を見てみると「ようやくここまで来たか」という思いと、不思議と寂しさも感じます。また、仮設住宅から転居しても、家にこもりがちな高齢者もおられ、「仮設住宅にいたときのほうが良かったなあ」とつぶやく方もおられます。それは、転居し新しい環境での生活が始まって、今までのように「つながり」や「支え合い」の実感を得にくくなったからかもしれません。仮設住宅を出ればすべてよしとは言えないこの課題に、教会はどのように仕えるべきか、考えさせられています。そして地域によっては、未だ先の見えない中で仮設住宅の暮らしを余儀なくされている方、放射能被害によって分断され続けている方、健康や生活を壊されている方もおられます。私たちはこれらのことに目を向け続けて、互いの課題を担い合いつつ、祈りをもって、少しでも共に歩ませていただきたいと願っています。

【写真】解体中の宮前仮設（上）、護岸工事（下左）、海岸の状況（下右） →



東日本大震災募金にご協力ください

2016年度募金目標額：600万円（国内・国外）

2016年7月までの実績 273万円

＜2016年6～7月募金者（受付順、敬称略）＞ 24名（口）の方々から献げられました。心から感謝申し上げます。

百合丘、小樽、旭川東光、中野、大阪ブロック女性会、鹿児島、学校法人西南学院、富士吉田、久保祐子、古賀、西野ギター&ピアノ教室、日立、菊池シオン、女性連合、市川八幡、中野、八幡、東大阪、高崎、飯塚、奈良、平尾、福岡、大分